授業科目名・形態	病態治療学Ⅰ(循環器系)　　演習	必修・選択の別	必修	単位数	2
担当者氏名	大本　直樹	実務経験の有無	有	開講期	２年前期

【授業の主題】

超高齢化社会を迎えているわが国では、今後も循環器系疾患の増加が予想されている。循環器疾患の病態や治療法を理解することは人体のメカニズムを理解し、患者さんの看護を行う上で極めて重要である。

【到達目標】

総論では循環系の基本的な仕組みを理解し、各論では個々の疾患の病態、最新の治療法について学習する。循環器病の全貌を概観し、日常的に遭遇する疾患については、より理解を深める。

【授業計画・内容】

第 1 回　循環器病学　総論　　循環器疾患の主な症候
第 2 回　循環器系の検査法　　循環器疾患　各論 1(心不全)
第 3 回　循環器疾患　各論 2(不整脈、ペースメーカー治療)
第 4 回　循環器疾患　各論 3(虚血性心疾患、心筋症)
第 5 回　循環器疾患　各論 4(弁膜症、血管疾患、先天性心疾患)

【授業実施方法】

講義ノート（レジュメ）を配布し、PPT を用いた講義形式で行う。

【授業準備】

一般的な知識に臨床現場の状況を交えて、学生の印象に残る授業を目指す。教科書に沿って進めます、内容が多いので予習してください。レジュメはまとめになっており復習に役立ちます。

【主な関連する科目】

生理学、内科全般、心臓血管外科、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ

【教 科 書 等】

新体系　看護学全書　成人看護学③　循環器

【参 考 文 献】　指定なし

【成績評価方法】

筆記試験 90%、授業態度等 10%により総合的に評価する。
試験は講義した内容から出題する。レジュメを活用し、知識を整理すること。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

内科の臨床医として勤務。この経験を活かして実践的な授業にしたい。

【学生へのメッセージ】

循環器は難しい印象を持ちやすい分野ですが、理論的に学習すると逆に得意分野にもなりやすいと思います。先ずは循環器疾患に興味を持ってもらいたいと思います。